

この夏の相棒

中川 優希 大阪府寝屋川市 三十歳

今年の暑さは、異常だ。例年の対策では、もう太刀打ちできない。「夏」というよりは「サバイバル」だ。朝から夜まで、毎日が耐久戦。冷房だけが命綱だ。とはいえ、冷房ばかりに頼りすぎると、電気代の請求書にめまいがする。他に、何か手はないか。そう考えて思いついたのが、植物だった。

涼しげな見た目に加え、植物には葉から水分を放出して空気を冷やす「蒸散作用」がある。その効果が高く、かつ育てやすい——そんな条件で選んだのが、パキラだった。手のひらのように広がる葉は、風がなくてもどこか揺れて見えた。霧吹きで水をかけると、ツヤが宿り、ひんやりとした空気が部屋を包みこむ。熱気が、すっとやわらいだ気がした。

試しに冷房の設定温度を一度上げてみたら、意外と平気だった。冷房の温度を一度上げると、電気代が約一割下がるという。月にして数百円。わずかとはいえ、物価高のこのご時世には大きな助けだ。

なんでも、パキラには『発財樹』という別名もあるらしい。金運が上がる縁起ものなのとか。電気代の節約も、その恩恵かもしれない。猛暑や物価高など、暮らしに変化を強いる出来事は次々と起こる。自分の力では防ぎようがない。けれど、応えていくことはできる。ひと鉢の植物を部屋に迎えたように、ひとつの工夫を日々に加えることならできる。何かが起きるたび、そうやって新しいやり方を取り入れていけばいい。

気づいて、決めた。今年の夏は、パキラと乗り切る。